

横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表

事業所名	岩崎学園新横浜第二保育園
報告書作成日	平成 29年10月 1日 (評価に要した期間 3か月)
評価機関	特定非営利活動法人 NPO中小企業再生支援

評価方法

自己評価方法 (実施期間:平成29年7月28日～ 29年8月16日)	・自己評価表は全職員が参加し、職員会議などで結果を話し合い、その結果を、園長、主任保育士でまとめたものである。
評価調査員による評価方法 (実施日:平成29年8月25日、9月7日)	・評価調査員3名が2日間に亘り、園を訪問し、園の観察と書類確認、さらに園長、職員からのヒアリングにより、調査結果をまとめた。
利用者家族アンケート実施方法 (実施期間:平成29年7月11日～ 29年7月22日)	全園児の保護者にアンケート用紙と回収用封筒を配布し、無記名・密封状態で園に設置した回収ボックスにより回収し、全てを評価機関に持ち帰り分析した。
利用者本人調査方法 (実施日:平成29年8月25日、9月7日)	・園児の1日の園内での生活を、2日間に亘って観察し、また、給食をともにしながら評価、調査を行った。

評価結果についての講評

【施設の概要】

岩崎学園新横浜第二保育園は、平成24年4月1日学校法人岩崎学園によって開設され、JR新横浜駅から徒歩7分、横浜市営地下鉄ブルーライン新横浜駅から徒歩5分の所にある、岩崎学園新横浜3号館の1～3階に位置しています。園周辺には、横浜アリーナなど大規模公共施設やオフィスのほか高層マンションも多く立ち並んでおり、交通の便も良いことから、様々な地域からたくさん子どもたちが通っています。

園の1階には事務所・相談室、2階には0～2歳児の保育室・調乳室・洗濯室・一時保育室、3階には3～5歳児の保育室・厨房調理室があります。通常保育に加えて「一時保育」「延長保育」なども実施しており、保護者や地域からの多様なニーズに応えるため様々な保育形態を整えています。同じ建物内には、学校法人岩崎学園の運営する「岩崎学園新横浜放課後児童クラブ」「横浜デジタルアーツ専門学校」が併設しています。

【施設の特徴】

岩崎学園新横浜第二保育園は、岩崎学園新横浜3号館1～3階の3フロアで構成されており、現在、在籍園児数157名（定員140名）と保育士28名を擁する、施設面積・在籍人数ともに非常に規模の大きな保育園と言えます。

施設設備の大きな特徴として、3階の渡り廊下によって隣接の岩崎学園新横浜2号館（横浜デジタルアーツ専門学校）に通じており、その中にある広い体育館を利用出来ることが挙げられます。ここでは、運動会や日々の保育のほか、岩崎学園が独自に開発した運動プログラム「スマート・ホット・キッズ」（4～5歳児対象）が行われており、日々子どもたちが元気に体を動かしています。夏季には、プール遊びも出来る屋上園庭があることも特徴の1つです。

これらに加え、園からは約10分ほどで鶴見川の河川敷へ行くことが出来るため、春には桜や色とりどりの草花、秋にはどんぐりやススキなど、四季折々の季節を感じながら、子どもたちは自然と直に触れ合う機会を持つことが出来ます。

【特に優れていると思われる点】

1. 独自に開発した運動プログラムを取り入れ、心身の健康を目指す保育の実践

園は「丈夫な身体と、しなやかな心を持つ子ども」の理念の下、2年間取り組む岩崎学園が独自に開発した運動プログラム「スマート・ホット・キッズ」（4～5歳児対象）を週に1度、隣接の岩崎学園新横浜2号館（横浜デジタルアーツ専門学校）にある体育館で実施しています。このプログラムは、陸上競技・球技・ダンス・器械体操の4つを柱とし、子どもたちの身体のバランスと運動能力の向上を目的としています。指導員は25m走・ボール投げ・立ち幅跳びの記録を個人ごとに記録して分析を行ったり、パソコンの映像を用いた指導方法を導入するなど、運動の楽しさを伝えるだけでなく、子どもたちの確かな成長に繋げることが出来るよう常に見守りながら取り組んでいます。お互いに励まし合ったり、上手く出来なくても諦めないよう、運動を通じた心の成長にも力を入れているようです。

2. 子どもを安心させる保育士からの声掛けと子どもへの対応

乳児クラスでは、子どもたちが日々穏やかに生活出来るよう、一人一人の気持ちに寄り添った保育に努め、どんな時も子どもたちの言動を見守り、出来るだけ多くの声掛けを行うようにしています。例えば、シャワーの時間には、保育士が子どもに「シャワーかけるよ」「お洋服脱ぐの手伝うけどいい？」など子どもが安心してその行為が行えるよう、今から何をするのかを優しく分かりやすい表現で伝えます。

幼児クラスでは、「主体性を育てる」ことを目標に、子どもたちが自身の行動を選択し自主的に実行出来るような場面を積極的に作り出すようにしています。クラスで何かを決める時は、子どもたちの気持ちを聞き出すようにし、子ども同士で話し合うよう促します。そうした機会を通して、「自分の意見を伝えること」「相手の話を聞くこと」「お互いに譲り合うこと」など、子どもたちが将来社会に出ていく上で必要なコミュニケーション能力や柔軟性を育んでいきます。

3. 研修で学んだことを必ず保育実践に結び付ける工夫

保育士は、横浜市および港北区主催の研修を受講することにしており、その際「研修報告書」の提出が園から課されます。この最後にある「実践に向けて」という欄では、保育士一人ひとりが「自分の学んだ研修内容が本園でどのように実践出来るか」を考察し、園内研修の企画・検討をします。こうして実践的な保育のあり方を考える取り組みを積み重ねることで、保育士間の共有の意識付けや保育の質向上へと繋げていきます。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

園には8階屋上にバルコニー（約150㎡）を併設し、夏には日光を浴び、風を感じる外気浴の園庭でプール遊びをしたり、近隣の自然に恵まれた公園や鶴見川の河川敷を積極的に訪れ、定期的に散歩や遠足を行うなど十分評価されるものです。また、隣接の体育館を活用することで、天候が優れない日でも子どもたちがのびのびと体を動かすことが出来ます。但し、保護者個々の満足度や期待することとして、自然とのふれあい等の実施を増やしてほしいとの要望が見受けられるので、その都度、子どもたちの外出の様子が伺える写真を園の連絡板や家庭へのおたよりに掲載するなどのPRを行うことで保護者の更なる理解が得られると思います。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は、「丈夫な身体と、しなやかな心をもつ子ども」「礼儀正しく、思いやりとやさしさに溢れる子ども」「未来に向かって、夢を持ち続ける子ども」としています。 ・年間指導計画は、クラス担任が立て、保育課程を基に各年間指導計画を作成し、月間指導計画、週案におろしていくようにカリキュラムが組まれています。 ・保育課程について、保護者へ入園時や懇談会にて説明しています。 ・保育は「丈夫な身体と、しなやかな心をもつ子ども」を作ると理念で示している通り、岩崎学園が独自に開発の運動プログラム「スマート・ホット・キッズ」を4～5歳の2年間、毎週1回1時間、コーチ4名が指導にあたり、陸上競技・球技・ダンス・器械体操の4つを柱としています。走る・投げる・跳ぶは今後あらゆるスポーツに必要な基礎となるものであり、就学後の学習にも活きてきます。 ・また理念にある「礼儀正しく」は保育士が率先しており、「あいさつは1回立ち止まって行う」という基本の礼儀作法を実践し、子どもも見習って外来者へ挨拶は欠かしません。 ・保育日誌には、その日のデイリー・配慮事項・環境構成・保育における自己評価・反省が記載されます。 ・子どもたちが一日の出来事の中でどの遊びを気に入ったかなど、言葉や表情・態度から観察していることがうかがえ、子どもが主体的に関わっているなどの意欲を伸ばす工夫がされています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に保護者に向けて「入園のしおり（重要事項説明書）」に沿いながら入園説明会を開催します。説明会前には保護者から「児童票Ⅰ、Ⅱ」「児童健康台帳」等、入所する子どもを取り巻く状況・生育歴や家族の状況等が把握が出来る書類を郵送し、説明会で提出してもらいます。その後、子ども同伴の面談を保育士が行い、必要に応じて園長、看護師、栄養士なども面談に立ち会います。 ・面談では、保護者の育児方針や意向に関する提出書類の記載内容の確認などを行い、面談結果は保育園の「面談シート」に記録し、その後、保育士全員で内容を共有し、保育に活かしています。行事や日常の保育の様子を収めた写真販売の承諾も頂いています。 ・担当保育士を決めることで子どもと保育士の信頼関係が一層定着し、子どもの情緒安定が図られています。 ・心理的拠り所物（お気に入りタオル・玩具等）は原則持ち込み禁止ですが、衛生上問題がない限り持ち込みができるよう配慮しています。 ・幼児はその日のクラスの様子をボードに書き込み、事務室前にて掲示をすることで、乳児は個人連絡ノートを使用することで、毎日の様子を保護者に伝えています。 ・新入園児が入ることで環境が変わっても、在園児が継続した生活の流れを保てるよう配慮しています。 ・年間指導計画・月案・週案・日誌の自己評価等については、クラス担任保育士の意見なども聞きながら、最終的には園長、主任保育士の了解を得て、次の指導計画改定を行っています。 ・保護者代表の運営委員による運営委員会の開催や日々の送迎の際に意見を収集しています。 ・在園児の進級に際しては、次年度の担任保育士に引き継ぎを行っています。 ・毎日の申し送り事項を記入した連絡ボード記録で順次、情報共有しています。 ・慣らし保育は基本10日間程です。子どものストレス軽減を最優先に考え、その意義を十分に説明の上、子どもの様子を見ながら、徐々に保育を長くする方式をとっています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・保育園は、岩崎学園新横浜3号館の1階～3階に立地し、1階は保育所専用の玄関・専用エレベーター・事務室、2階は0～2歳児室の保育室・一時保育室、3階は3～5歳児の保育室等があります。
- ・8階には園庭とアトリエがあり、夏季にはプールを設置し、春秋冬は園庭として、また、アトリエは年間を通じて造形遊び等に利用しています。
- ・ビル全体は岩崎学園の不動産部が管理し、補修・点検など、すぐ対応できる体制です。
- ・ホールは広く、コーナー遊びや運動遊びにも使用できます。
- ・ビルは中庭吹き抜け構造の園舎です。
- ・体育館は、併設の学童クラブ、姉妹園となる岩崎学園新横浜保育園等と共同で使用しています。
- ・保育室の清掃は、クラス担当保育士が1日2回、共用の部屋はクラス毎で掃除を分担しチェック表に記入しています。月に1度土曜日は「大掃除の日」を設け、エアコンの掃除など普段できない箇所を丁寧に清掃しています。
- ・換気装置に加え、必要に応じて窓を開ける等、保育園内の換気には絶えず配慮しています。また、各保育室には床暖房が備えられ、空調には加湿機能が付いています。
- ・各保育室ごとに自由に、温度設定ができます。保育室の壁は可動式パーテーションとなっており、合同保育時には広く部屋を使うことができます。空気清浄器も設置されています。
- ・陽光を調節するときは、ブラインドを使用しています。

I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児の月間指導計画には、年齢ごとの目標、配慮事項、個別の目標と配慮・援助が書かれ、計画と実行の比較がしやすくなっています。そこには、携わる保育士全員の確認印があり、情報共有がなされていることが窺えます。
- ・指導計画はクラス担任が作成し、月案、週案、日案は園長・主任が確認します。週案は、各クラスの連携を取りやすくする為に週案会議を行い、事務所に貼ってあります。
- ・特別に配慮の必要な幼児が数名おり、個別指導計画を作成し、保護者の同意を得て、横浜市総合リハビリテーションセンター・東部地域療育センターと連携しています。
- ・指導計画に対する自己評価・反省は、月1回のケース会議・幼児会議・乳児会議で見直しを行い、子どもの発育に伴う変化が見られたときや、別の兆候が見受けられた時には随時関係者で計画の変更・見直しを行っています。
- ・ケース会議の記録は、保育士が輪番で記入し、確認印を押すことにより、過去に携わった保育士や当時のこどもの状況が、時系列に把握できるようになっています。
- ・子どもの成長記録は、「児童票・発達経過記録」に、乳児は毎月、幼児は4期毎にクラス担任が記録しています。
- ・個別の書類は、個人情報漏えいを防ぐために鍵のかかる書庫に保管されており、園長が管理しております。保育士は、園長の許可を経て、保育の必要に応じて閲覧することができますが、事務所からの持ち出しは厳禁です。
- ・個別の書類は、子どもの進級時に行われる保育士間の申し送り時に活かしています。
- ・「保育所児童保育要録」は、小学校に書留で郵送されます。児童票・発達経過記録・健康台帳などから養護と教育5領域ごとに発達の捉える視点・保育士の援助を記載し、園長の承認を得て、就学先の小学校へ送付します。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・本園には、気になる子どもや特別な配慮が必要な子どもが数名在園しています。横浜市総合リハビリテーションセンター・東部地域療育センターと連携を図り、年2回の巡回相談も積極的に受けています。
- ・支援が必要な家庭と子どもは、児童相談所と連携を図りながら、必要に応じて対応しています。
- ・担任は毎月実施するケース会議などで保育士間で情報を共有し合い、保育を行っています。また、保育士は、障害児研修に参加し、理解を深め、受け入れ体制を整えています。
- ・保育園施設はバリアフリーで、保育室・廊下・ホール等、全体空間は広くゆったりとしています。
- ・本園には虐待事例はありませんが、対応マニュアルに沿って子どもの様子に気を配り、不審な痣や怪我など細かい気付きがあった場合は、園長、主任保育士に報告しています。また、必要に応じて北部児童相談所や保健福祉センターとの情報交換や通報など、連携できる関係を整えています。

- ・本園には1割強の食物アレルギー児童が在園しているため、食物アレルギー除去食対応児に対しての給食提供には、厳しいチェックを徹底しています。
- ・横浜市こども青少年局横浜市医師会保育園医師部会と岩崎学園3保育園独自の「アレルギー対応マニュアル」により、食物アレルギー除去が必要な児の入園時には医師の診断指示書「生活管理指導表」「食物アレルギー疾患届」を提出してもらい、園長、看護師、栄養士の承認確認を経て除去食の提供が開始されます。また、給食会議・メニュー会議も毎月実施され食材の確認や食具変更の連絡、喫食状況等の報告を行っていきます。
- ・月末には、翌月の献立表を保護者に配布し、アレルゲンとなる材料がそこに含まれていないかを保護者にチェックしてもらい担任と看護師がその確認を保護者がチェックした献立のコピーを栄養士に渡し、共通認識をしていく。
- ・食物アレルギー除去食対応児の給食提供は、専用食器・個人名、除去食材記載のカラー専用トレイを使用し、調理員2人がダブルチェックし、厨房からクラス担任が受け取り、クラス担任から本児への配膳時にボードを用いて、言葉と目視で確認するという、念入りなチェックで誤食を防いでいます。
- ・保育士は積極的に食物アレルギーの外部研修に参加しています。
- ・現在、外国籍の園児も在籍していますが、保護者は日本語会話ができますので、子どもの気持ちに寄り添い、困らないようにしています。
- ・異なる国の習慣や文化の違いを、日々の活動の中で必要に応じて、その違いを子どもたちにも伝えたりしながら、保育園（日本）で必要な生活習慣を知らせています。
- ・郷土料理や多国籍料理を月に1度特別メニューとして加えることで、簡単に食文化について、興味を持てるように心掛けています。

評価分類


I-6 苦情解決体制



評価の理由（コメント）

- ・苦情窓口や第三者委員への申し立てなど苦情解決について、「入園のしおり（重要事項説明書）」に記載し、入園説明会で説明するとともに、苦情窓口担当者、苦情解決責任者、第三者委員2名の名前、電話番号を事務所前に掲示しています。
- ・事務所前に「スマイルBOX」（意見箱）を設け、各種行事の際はアンケートをお願いするなど、保護者の声や意見の収集に努めております。また、第三者委員も行事や園の運営委員会に参加するなど、顔の見える関係を作る努力をしています。
- ・保護者に対しては、担任保育士以外の保育士も日常的に声を掛け、話しやすい体制を心掛け、朝夕の送り迎えの時や懇談会の際も利用して、意見の収集に努めています。
- ・運営委員には、保護者から立候補をしてもらっています。
- ・園単独で解決が困難な場合には、運営法人の総務部に連絡、相談するとともに、港北区こども家庭支援課と連携を取り解決する体制が取れています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="188 219 502 250">Ⅱ－1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none">・各クラスのおもちゃや教材は子どもの目線に合わせた低い棚の中に入れてあり、子どもは自分で好きなおもちゃや教材を自由に取り出して遊べるようになっていました。活動内容によっては、手作りのパーティーションを組み合わせて、ままごとコーナーを作ったり、マットを敷いてブロック遊びをしたり、机上遊びでは、絵本を読んだり、お絵かきをしたりと、子どもがそれぞれ落ち着いて遊べる環境づくりをしています。・楽器遊びでは2拍子・3拍子とリズム打ちを楽しんだり、ルールのある遊びしっぽりゲームでは、取った尻尾を自分のおしりに付けて復活できるようにするなど、ルールのあるゲームあそびをしていく中で子どもたちが考えた発想を受けいれ主体的な保育を行っています。・8階テラスを利用して、イネ、ナス、トマト、枝豆、ピーマンなどを栽培しています。その成長過程を観察し、観察画を描き、保育室内に飾っています。また、オタマジャクシ、コオロギ、ザリガニなど捕まえた生き物は、園内で飼育して、オタマジャクシはカエルになるまで成長する様を観察し、観察画を描くなど生き物を身近に感じられるようにしています。・子ども一人一人の自己表現が年齢や発達に応じて、豊かに行え、発揮できる機会を行事に沿って設けています。運動会では、3才児は自由な身体表現を楽しめる体操やダンスを曲に合わせて行います。4才児はパラバルーン、5才児は組体操となっています。クリスマス発表会では、乳児は手遊びや人気の絵本を題材にしたお話劇、幼児はオペレッタを上演しています。オペレッタでは、子どもたちが好きな曲を選んだり、登場人物が増えたりと、子どもたちが主体的に関わり物語を作り上げています。・子どもがいけない事をした時には、しっかり教えるようにしています。園児間でトラブルが起きたとき、幼児の場合は、保育士は仲介に入り、何が原因だったのか、お互いの話をよく聞くようにし、子ども同士で納得し合い解決できるよう、園児の気持ちに寄り添いながら対応しています。・戸外活動では、子どもの体力・身体の発達段階や運動機能を高められるような場所を考慮して公園を選んでいきます。室内遊びの乳児クラスにおいては、巧技台、マットなどでアスレチックを組み立て、運動遊びをしています。

Ⅱ-1 保育内容[生活]



・幼児クラスの子どもたちは、配膳されたおかずなどから、自分が食べられるくらいの量の皿を選んでいきます。どうしても食べきれない時には、保育士と相談して量を決めています。好き嫌いがあり、食べることでできない子どもに対しては、「少しだけ味見してみようか」などと、食べてみることを促しをしています。

・子どもの日、七夕、クリスマス、ひな祭りなどの季節の行事に合わせた献立をたてるようにしています。また、国際食と郷土食を隔月で取り入れ、食の多様さを子どもに知らせるようにしています。盛り付け時には、色鮮やかになるように、味が混ざらないように配慮しています。

・栄養士による給食時の見回りや、給食会議の内容から子どもたちの喫食状況を栄養士が把握し、食材や調理についての意見を出し合う等、食べやすいようにしています。また、0、1歳児の配膳台には調理用ばさみを用意し、子どもの喫食段階に合わせて食材を細かく切り分けることができるようにしています。

・4月に行われる懇談会の時には、0歳児保護者に向けて、離乳食試食会を行っています。保育園の離乳食のゴックン期・モグモグ期・カミカミ期の段階形状の具合を知って頂くために実施しています。10月の保育参加の時には、参加保護者の方に給食の試食会を行っています。

・午睡時の保育室は明るさを調節したり、季節に合わせた温度・湿度を設定し快適に過ごせるようにしています。眠れない子どもには午睡は強要せず、心と体を休ませる時間であるという事を伝え、少しだけ横になって体を休ませるよう促しています。どうしても眠れない子どもは、別スペースで静かに本を読んでいます。

・トイレトレーニング開始については、0才の終わりころから便座に座る練習を始めています。排泄がされなくても便座に座るという習慣を付けています。また、オムツの取り換え間隔が広がってきたら、保護者と連絡を取り合い、保護者の意向を尊重しながら個別に対応しています。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



・健康管理マニュアルがあります。看護師はそれに基づいて毎朝の視診(各クラスの見回り)や、保護者からの情報を元に子どもの健康状態を把握しています。把握した子どもの健康状態は、昼ミーティングの時に全保育士に周知し保健日誌に記載しています。

・年2回健康診断、年1回歯科健診を行い、診断の結果は一人一人の「健康カード」に記録すると同時に、個々の児童健康台帳・歯科健康診査票にも記載し、入園からの履歴が分かるようになっております。また、「健康カード」には毎月の身体計測の結果も記入されており、測定や診断の度に保護者に渡し、確認・押印の上返却してもらい、園と家庭での共有を行っています。

・入園時に保護者から提出してもらった「健康調査票」「経過記録」を一人ひとりファイルし、特別に配慮の必要な既往歴(肘内障・喘息・熱性けいれん等)のある子どもについては一覧表にし、全保育士が把握できるようにしています。

・感染症への対応を記載した、感染症予防・まん延防止マニュアルがあります。入園時には保護者に向けて、「入園のしおり」を基に、「登園許可がある病気」「登園届けが必要な病気」などを説明しています。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理[衛生管理]





・衛生管理マニュアル、清掃マニュアル、清掃手順表、清掃チェック表があります。園内は1日3回の清掃が行われ、清潔が保たれています。マニュアルについては、毎週1回行われる清掃などのチェックにより保育士で話し合わせ、見直しを行っています。見直しの結果、掃除箇所などの変更が行われます。また、運営法人内に衛生委員会があり、保育園からも主任保育士が出席して他部署との連携を図りながら園内の衛生管理に努めています。

・衛生管理に関して、毎年嘔吐や下痢などの感染症が流行する前に、看護師より嘔吐処理方法の説明と実施研修を行い、全保育士が嘔吐処理を的確に行えるように努めています。


Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- ・岩崎学園3保育園共通の安全管理マニュアルがあります。風水害時対応マニュアル、事故防止マニュアル、など安全に関する各種マニュアルがあり、保育士には周知・研修が行われています。
- ・年間計画に基づき毎月1回、火災・地震・洪水浸水・不審者を想定して訓練を行っています。訓練の中には広域避難所への移動訓練や年1回の引き渡し訓練も行っています。また、緊急連絡体制が確立されており、緊急時には保護者へ一斉メールが送信されたり、災害伝言ダイヤルを利用することになっています。保護者には連絡が付かない場合を考慮して、年度初めに緊急連絡先を更新してもらっています。
- ・保育士はAED、救急救命法の研修を2年に1回は受講し、万が一に備えています。
- ・子どもの事故や怪我の発生時、保護者と救急機関とすぐ連絡が取れる体制が確立しています。事務所に「緊急事態発生時の連絡先一覧」のリストを置き、緊急時には保育士が誰でも連絡できるようになっています。
- ・園の出入り口は施錠されており、保護者はICカードを使用して開錠することができます。訪問者はインターフォン画面で顔、名前を確認の上、開錠することとなっています。
- ・園内の出入り口全てに、防犯カメラが設置しており、ビル全体を24時間監視をしています。警備員も常駐しており、1日数回の巡回が行われています。
- ・年に1回、元警察官の運営法人の職員の指導の下、実践さながらの不審者対応訓練が行われています。訓練では、不審者用非常ベル通報、刺叉の使用方法、不審者の取り押さえ方、子どもの逃がし方、不審電話への対応等を行っています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士は子どもの気持ちに寄り添う保育ができるよう、威圧的な言葉遣い等が行われないように園内研修で学ぶと共に、気になることがあった場合は日々の昼ミーティングやクラス会議で話し合いを行っています。園長は、気になる言葉がけについて指導したり、全体での一つの事例として捉えてミーティングで話し合いを行い、保育の振り返りを行っています。 ・園内には、友達や保育士の視線を気にせず過ごすことができる空間としてホールや事務室など、環境が整っています。また、岩崎学園が作成した「学校法人岩崎学園個人情報保護方針」があり、保育士には奉職時研修で、ボランティア・実習生にはオリエンテーションで意義や目的を周知しています。全保育士は守秘義務の意義や目的を理解確認しています。 ・日々の保育では、子どもの気持ちや個性・主体性・自由な表現ができるような保育を行っており、遊びの選択や行事の役割、性別による区別を行っていません。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会では、「入園のしおり（重要事項説明書）」を基に園長が保育理念、保育方針、保育目標を詳しく説明しています。また、進級時に行われる懇談会においても、全体会の場を設け、園長から保育の基本方針の説明を行っています。 ・子どもの送迎時には、各クラスの伝達表を基に、保護者への伝達事項や、子どもの1日の活動の様子を具体的に伝えるようにしています。 ・保育士は、保護者から相談を受けた場合、相談内容によっては即答を避け、園長・主任から助言を受けています。また、必要に応じて保護者の同意を受け、園長・主任が同席することもあります。すべての相談は園長・主任に伝えられ、昼ミーティングで報告したり、伝達表に書き込みを行い、保育士間で共有すると共に、保育士全員で、同じ対応ができるようにしています。また、保護者からの相談場所には、保育室から離れて1階にある相談室で行い保護者が落ち着いて相談できるように配慮しています。 ・「えんだより」「クラスだより」「給食だより」「ほけんだより」を毎月発行し、園に関する情報を発信・提供しています。 ・年間行事予定表を年度初めに配布し、保護者の参加の有無も記載しています。また、毎月発行の「えんだより」には、当月の予定と次月の予定を記載して、保護者があらかじめ、計画を立てやすいようにしています。 ・年に1回、10日間ほどの期間を設けて、保護者の保育参加を行い、給食の試食も行っています。 ・保護者が発足者となっている有志の集まり会「横浜パパ会」（在園児家族も参加）があります。会からの依頼で園内にチラシを置いたりポスターを掲示したりして、参加者募集の協力を行っています。「段ボールで作ったウォータースライダー」や「大きな紙にみんなで桜を咲かせよう」などの横浜市内を会場としたイベントで、親子で思い出作りを楽しんでいるようです。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	
<p>III-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズの把握は、保育園の行事に地域の方をお招き参加して頂き、アンケートにより意見や要望を頂いています。また、毎月近くの公園で行う「なかよし広場」など地域の未就園児や近隣保育園児との交流をおこなう場を設けるなどの活動を行っています。 ・園長は港北区や市の園長会、幼保小連携事業の研修や検討会にも参加しています。 ・一時保育の利用者は、年々登録者が増えています。 ・5歳児による小学校・近隣保育園等との交流は14回参加しています。 ・地域住民に向けての育児相談は随時受け付ける事をホームページに記載しています。施設見学や一時保育面談時に相談を受けたり、「なかよし広場」の参加者からも育児相談を受けています。

Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能



・ホームページや、「保育園の行事に参加してみませんか」のチラシを戸外活動時などに配布し、「七夕の集い」「絵本の読み聞かせ会」「作品展」「節分集会」等の季節の行事や、毎月の行事である「なかよし広場（第2金曜日に近隣の公園にて開催する絵本の読み聞かせ会）」情報を提供しています。

・育児相談については、一時保育利用者、園見学者に積極的に声をかけ、園で実施している「なかよし広場」や、「わくわく子育て広場」で情報提供する一方、育児相談を受けた場合は別の日を予約して対応しています。

・育児に関わる様々な情報やチラシを誰もが目にして持っていけるように事務室前に置いてあります。

・横浜市のこども HAPPINES ポット、港北区のHP、岩崎学園HPなどで情報提供を行っています。


・専門機関との連携では、主には港北区役所こども家庭支援課と、特別な支援を必要とする子どもの認定は港北区こども家庭支援・横浜市総合リハビリセンターと連携・相談しています。虐待が疑われる場合は、港北区こども家庭支援課・保健師・北部児童相談所と連携・相談をしています。これらの専門機関リストは、一覧に作成して事務所に置いてあり、保育士は必要な時に活用できます。



・行政機関、医療機関、療育関係機関との担当は園長となっています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の行事の中から地域の子育て支援として「七夕」「絵本読み聞かせ会」「豆まき」「作品展」などや、毎月の「身体測定」「お誕生日会」には、地域の親子も参加しています。地元のNPO「日本の竹フアンクラブ」の方々とは、七夕用の大きな竹の伐採をさせて頂くなど交流し、子どもも喜んでいます。 ・年長児は、近隣の保育園と「ドッチボール」や「リレー」などを公園で行い、同じ小学校に通う可能性のある友だちと、就学前の交流保育を行っています。 ・戸外活動は近隣の公園を利用しています。また、日産スタジアムでは、子どもと保護者が制作した鯉のぼりの掲揚式に近隣の保育園・幼稚園と参加したり、横浜アリーナでは「花壇の苗植え」などを近隣の保育園と共同で行っています。 ・園が散歩で利用している公園では、毎月の清掃を港北区土木事務所公園愛護会の方と4、5歳児が協力して行っています。 ・港北区子ども家庭支援課が毎年9月に開催している「わくわく広場」には、園の保育士は積極的に参加し、「手作りコーナー」や「保育園PR」を担当しています。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の情報はホームページで提供しています。 ・地元NPO法人「ビーのビーの」が発行する「幼稚園保育園ガイド」に園情報を掲載し、毎年更新しています。 ・施設見学者に対しては、一時保育事業などの詳細情報を提供し、港北区子ども家庭支援課が毎年、子育て支援の一環で行う「わくわく広場」では、地域の未就園児に対して、園情報を発信しています。 ・問い合わせや見学希望者に対しては、保育園パンフレット内容に沿いながら、平日は園長が対応し、説明しています。 ・施設見学が可能である旨を、横浜市ホームページや岩崎学園ホームページに掲載しています。 ・保育に支障の無いよう、保育の様子がよくわかる時間帯を見学時間とし、希望者の都合に対応しています。
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園にはボランティア受け入れマニュアルがあり、それに沿って受け入れ時にはオリエンテーションを行い、保育園の保育方針、子どもへの配慮を十分説明しています。 ・運営法人が設置する横浜保育福祉専門学校・横浜実践看護専門学校の学生の実習にも積極的に協力しており、実習生を毎年受け入れています。実習生の受け入れ担当は園長・主任保育士で、受け入れ記録等を取っております。 ・ボランティアは、夕涼み会・運動会・発表会などの園の行事にも参加しています。 ・実習生・ボランティアの受け入れに際しては、事前に「園だより」などで、保護者に向けて受け入れの方針や主旨などを説明しています。 ・実習に際しては、実習生の理解度に合わせた的確な指導をするために、年齢クラス、部分実習、責任実習などの希望を聞いたうえで、より効果的な、将来の保育士を目指す学生がより良い実習を体験できるように「プログラム」を組み立てています。 ・実習期間中はクラス担任が質問を受け、その日の振り返り、反省を実習生と話し合っていますが、最終日には、園長、主任保育士、各クラスのリーダーが入り、反省会を行っています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の資質向上のため、期初めに目標を定めています。また、保育士は毎年、保育に関する3年分を見比べられる冊子状の「自己評価表」を使用した自己評価を行い、①年度初めにスタートし、②10月ごろに園長面談を行い、③2月に各項目の達成度にチェックを入れて評価しています。 ・園長は人材育成を第一の課題として、運営法人が設置する「人材育成プログラム」の推進に注力しています。そこでは、保育内容の充実・園内外研修への参加等、保育士たちが自ら掲げる課題に対してグループを組み、継続的に議論や検討をして実践に向けて取り組んでいます。 ・近隣保育園との合同研修では、実技や講演会などがあり、積極的に参加しています。 ・外部研修に積極的に受講し、保育士が学んできた内容は、保育士会議や昼ミーティングで報告し保育士間の共有を図り、中でも重要な研修内容については、受講してきた保育士が講師となり、園内研修を開催しています。 ・日々の保育の中で気付いたことなどは昼ミーティング時に、お互いに伝えあうことで、絶えず保育の質向上を目指しています。また、月に1度、園長・主任の出席のもと、パート会議を設け、意思の疎通を図っています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の保育日誌には、その日のデイリー・配慮事項・環境構成・保育における自己評価・反省が記載されます。週案、月間指導計画の中でも、保育における自己評価・反省が記載されます。 ・保育士一人一人の振り返りとしては、3年間分見比べられる「保育士の自己評価」を行い、年度初めに各自、課題を定め、中間期で園長面談を受け、2月に達成度を自己評価して、さらなるスキルアップに繋げています。 ・園長は運営法人の園長会議や港北区園長会・港北区私立保育園園長会が開催される時には参加し、情報を得て園の運営に活かせるものは活かすようにしています。 ・指導計画は保育園の保育理念を踏まえ作成されており、子ども一人一人の生育状況と関連づけて行っています。 ・月間指導計画、週案、食育計画は、保育士会議等で振り返りを行い、必要がある時には修正を行っています。 ・指導計画の振り返りは、子どもの姿から見えてきた課題について、保育理念や保育課程に沿って主任保育士・リーダーを中心に話し合われます。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の経験年数に合わせてクラスリーダー、幼児リーダー等の職務分担を行い、保育士が保育状況に応じて自主的に判断できるように権限を委譲し、責任を明確にしています。 ・園長は日常、業務改善提案には耳を傾けるようにし、提案を出しやすい雰囲気になるように配慮しています。 ・園長は保育士と個別面談では必要に応じてアンケート方式にすることで、保育士の要望や満足度などを把握し、保育士一人一人のモチベーション維持に努めています。 ・年2回または必要に応じて実施される園長面談では、自己評価表と目標達成度を含めた人事考課が行われます。個人としての達成度等が話し合われます。また、経験の浅い保育士に自覚と責任が持てるよう、クラスリーダーが助言することで、モチベーションが維持できるようにしています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの順守については、本園就業規則があります。また「児童福祉法」に「保育士の守秘義務順守」があります。他に順守すべき規範として「保育士倫理」等があり、全職員（パート職員含む）に周知されています。 ・保育園の入所者状況・空き状況については毎月、横浜市港北区に報告書を提出し、公開されています。 ・他施設の不正・不適切な事例報告・情報は、日々のミーティング・職員会議で話し合い、注意喚起しています。 ・ごみの排出は産業廃棄物業者と契約しています。 ・横浜市資源循環局港北事務所「3R夢スクール」では、4・5歳児を中心にリサイクル・エコ活動について学ぶとともに資源を大切にすることを子どもたちに日常生活の中でも伝えています。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの順守については、本園就業規則があります。また「児童福祉法」に「保育士の守秘義務順守」があります。他に順守すべき規範として「保育士倫理」等があり、全職員（パート職員含む）に周知されています。 ・保育園の入所者状況・空き状況については毎月、横浜市港北区に報告書を提出し、公開されています。 ・他施設の不正・不適切な事例報告・情報は、日々のミーティング・職員会議で話し合い、注意喚起しています。 ・ごみの排出は産業廃棄物業者と契約しています。 ・横浜市資源循環局港北事務所「3R夢スクール」では、4・5歳児を中心にリサイクル・エコ活動について学ぶとともに資源を大切にすることを子どもたちに日常生活の中でも伝えています。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は横浜市・港北区の園長会議には必ず出席し、情報収集に努め、また、法人からの重要な情報についても、必要な情報は主任・クラスリーダーと対策を検討し、職員会議で全保育士で共有しています。 ・定員枠受入拡大については、保育士間の理解と共有が最優先とし、職員会議で説明し、保育園一丸となって事にあたっています。 ・園は学校法人の保育事業部門であるため、その性格上中期（3年）長期（5～10年）の事業計画は必須事項であります。そのため系列保育園である三園が、一貫した保育・サービス、利用者数、一時保育利用者数、保育士養成などについて検討しています。 ・次代の組織運営に資する目的で園長は外部研修に参加し、「常に変化する保育ニーズに応えられるサービスは何か」などの将来の課題について情報を収集しています。 ・園長は専門家の意見等を取り入れられるよう、積極的に講演会や話し合い等に参加し、園運営のノウハウの把握に努力しています。

利用者本人調査

平成 29 年 8 月 25 日、9 月 7 日

事業所名：岩崎学園新横浜第二保育園

【全園児】

<お誕生会>

8 月生まれの誕生会。

残暑が続く 8 月の下旬、3 階の 3、4、5 歳児の保育室のパーテーションを取り外して設けた大ホールにて、誕生会が行われました。0 歳児の一部の園児を除き、全園児 157 名中 130 名余りが集まり、8 月に誕生日を迎えた子どもたちを皆でお祝いしました。

5 歳児代表の子ども 4 人が前に出て「はじめのことば」で始まり、「手のひらを太陽に」の歌を手拍子とともに合唱したあと、紙芝居を先生と子どもで行いました。

その後、誕生日を迎えた子どもたちが、乳児からクラス別に全員の前に出て一人ひとり紹介されます。乳児は「名前」「年齢」「好きなこと」、幼児は「名前」「年齢」「好きなこと」「将来の夢」について、先生の促しの言葉に応じて大きな声で答えていきます。

周りで聞いている子どもの中には、一部集中力が切れてしまう子が見受けられるものの、自分の友達が紹介されるとにぎやかにはしゃぎます。

5・6 歳になると、紹介事項も自分で言います。特に男の子は、堂々と好きなことや将来の夢について大きな声で語ります。ある子が「歌手の『EXILE』のようになりたい」と話した時には大きな拍手が送られていました。

日頃の園での生活だけでなく、誕生会を通して、皆に自分のことを知ってもらい、お祝いをしてもらうことは、子どもたちにとって非常に良い思い出となるとともに、この自己紹介のように「自分の意見を皆の前で話すこと」は子どもの自己肯定感を満たし、情報発信能力を育てるという意味でも良い機会になるだろうと思われま

【0 歳児】

<保育室に戻って>

多くの子どもたちは食事準備と沐浴の時間に入りました。中には午前寝をしている子どもも居るため、保育士は、「ここについていてもらっていいですか」などの声掛けをして連携を図っていました。それぞれの子どもがどこにいるかを明確にし、見守りの保育士が居ない状況を作らないよう注意を図っているようでした。

午前寝の有無については、子どもの月齢とその日の体調によって判断しているようです。観察当日、眠そうにしている子どもが居ましたが、食事前 15 分くらい仮眠を取らせてから食べさせるなど、その場で臨機応変に対応を考えているようでした。月齢が低い子の授乳は、登園時に保護者から朝の授乳量を聞き、必要であれば前倒しして授乳する対応を行っていました

食事準備として手洗いや椅子に座らせる際も、「次、〇〇くんがいきます」などと互いに声掛けしながら混乱が生じないようにし、「〇〇くん座っていてね」「〇〇くん座ろう、そ

う！上手だね」などと子どもへの声掛けも意識しながら促していました。

多くの子どもたちが準備を終えた時点でエプロンシアターが開始され、歌の部分では子どもと一緒に保育士も歌を歌い、中には体をゆすって喜んでいる子どもも居て、皆楽しんでいる様子でした。

メニュー確認についても、普段より少し大きな声での声掛けを心がけているようで、どの保育士も周りに瞬時に情報が伝わるよう配慮しているようでした。子どもの喫食状況に合わせてキッチンはさみでカットするなど大きさを調整していました。子どもへの声掛けも「お野菜おいしいよ」「たべようね」「かみかみ」「あむあむ」「ブロッコリーたべられたね」「〇〇ちゃん最後集まれしようね」などと絶えず話しかけ、子どもたちが出来た行動について褒めるようにしていました。デザートはバナナだったため、月齢によりスプーンで小さくして渡していました。

他の時間も保育士同士の声掛けが盛んに行われており、事故を未然に防ぐことや保育士同士の連携を深めあうことなど、保育士全員が協力して務めを果たそうとする意識がしっかりしているように感じられました。

【1歳児】

<お誕生会后>

移動の前の少しの間、3Fエレベーター前でブロック遊びをしながら、順番に保育士の援助でトイレに行っていました。背の高いブロックタワーを作り上げている子どもも居ました。トイレの援助・ブロック遊びと、保育士は手際よく分担してこなしていました。

<月、金はシャワー>

夏季は、シャワーの時間が設けられています。待ち時間にはマットの上でレゴ遊びをするようです。1歳児ということもあり、オムツのみに着替えてタオルを肩にかけた状態で、園児たちは順番に2mほど離れたシャワーの所へ向かいます。「シャワーかけるよ～いい？」「シャワーしていい？」など声掛けをしており、シャワー担当の保育士は着替えへ移行する際に「〇〇ちゃん行きまーす」と着替え担当の保育士への確認も怠りません。裸で逃げる子については「はだかんぼはイヤよ」と伝えながら服を着せていました。

レゴ遊びで待っている子どもたちで、泣いている子に対し「取られちゃったの？」「どうしたの？」などと話しかけていました。泣いてしまう園児も大体常に同じ子どものように、保育士も慣れている感じで「どうしたの？」「だっこ？」「いたいいたいのとんでけ～」と慰めながら抱っこで落ち着かせていました。

子どもたちへの気遣いをしていて、園長の子どもの人権を守るという言葉がこうしたところでもしっかりと実践されているようでした。

【2歳児】

<朝の会前>

登園してきている保護者と園児、既に到着して席についている園児とが混在する時間帯であるため、少し慌ただしくしています。親と別れて泣いてしまう子どももおり、抱き上

げた保育士が「髪を触られたのが嫌だったの？」などと気持ちを聞きだし慰めていました

<朝の会>

一人の保育士が前に立ち、「これから朝の会を始めます。先生おはよう、みなさんおはよう」と元気な挨拶でスタートします。朝の会では、「〇〇ちゃん、1時30分に病院です」「〇〇ちゃん、様子見でお預かりです。何かあったらお母さんの携帯に電話ください、とのことです」「〇〇ちゃん、耳垂れが出ていたら優しく拭いてください」「〇〇ちゃん、40度の熱でお休みです」といった感じで保育士間での、その日の子どもたちの特記事項について伝達が行われます。

その間、子どもたちは少々ざわついており、保育士が静かにするよう促していました。保育士は「今日のお休み何人でしょう？」と、手を叩きながら人数を数えたり、クイズを出したりしながら子どもたちの気を引きます。おやつは厨房に取りに行きます。その際、栄養士が「伝達お願いします」「〇〇ちゃんはお茶、〇〇ちゃんは変わりなしです」と、おやつについて栄養士と保育士の間でも情報共有をしていました。

やはりおやつを目前にすると、子どもたちは嬉しくなって声をあげていました。保育士たちは「みんなの好きなアンパンマン煎餅です」など、子どもが期待を持てるような声掛けをして落ち着かせていました。一緒に配膳される牛乳はおかわりが出来るようで、飲み終わっておかわりを欲しがる園児も居ましたが、途中で他のクラスからも牛乳のおかわり下さいと連絡が来て、残りの牛乳は他のクラスに回す場面もありました。おやつが終わると、保育士はゴミ（煎餅が入っていた袋）を集め、「コップ集めます」と使用した食器の片づけを子どもたちに促していました。

<トイレタイム>

おやつの後、「お手々をぱっちん、ご一緒に」「ごちそうさまでした」「口を洗って、トイレに行きます」という挨拶とともにトイレタイムに入ります。活動の切り替えごとにその時間を設けているようで、子どもたちは保育士に指示されて順に口を洗い、トイレに行っていました。途中、一人の子どもが順番を乱したために保育士が声を掛けると、他の保育士が「〇〇ちゃん、口の周りが気持ち悪いというので、先に行かせました」と保育士間で声を掛け合っていました。トイレを済ませた子どもたちは、絵本の読み聞かせを聞きながら皆を待っていました。

<お誕生会后>

誕生会終了後、会場を離れてエレベーター前の窓際に並び、「あたまかたひざポン」の手遊びを行います。活動の切り替え時には、絵本読みや手遊びを入れていました。その後、保育士のリードで、子どもたちは手すりをしっかり握って3Fから2Fにある自分たちの保育室に階段で戻ります。

部屋に戻ると、皆壁際に座り、カスタネットや鈴を手を持って合奏の時間になります。全員で輪になり、保育士の演奏するピアノの音に合わせて自分たちも演奏しながら、部屋の中を行進します。ピアノが止まったら楽器の音も止めるという遊びが、最初はなかなか

難しいようでしたが、徐々に上手く出来るようになっていきました。行進は保育室を出て共有フロアまで進み、子どもたちは活き活きと自信満々に演奏しながら楽しそうに過ごしていました。

<食事>

保育士と一緒に「給食のうた」を歌って、皆一緒に「いただきます」の挨拶を合図に、子どもたちは友達と楽しそうに話をしながら食事を摂っていました。ほとんどの子が完食しており、終わった子どもから自分で歯磨きを始め、最後は保育士による仕上げ磨きを一人ひとりしてもらっていました。食べるのが遅い子どもも頑張っで完食し、デザートのパナナを食べていました。

全員が食事を終わると一斉に「ごちそうさまでした」と挨拶をして、その後はパジャマに着替えたりトイレに行ったりするなど、午睡の準備に取り掛かっていました。

【3、4、5歳児】

<お誕生会前の朝の会>

誕生会でメインとなる園児の座る椅子に向かい合うように椅子を並べ、前列から3歳、4歳、5歳グループと横に数列で座ります。

お祝いをしてもらう誕生児の3～5歳児の子どもたちは金・銀・黄の色紙で作られた王冠を、0～2歳児の子どもたちは各自クラスカラーの花の冠を被っていて、誇らしげな表情を浮かべていました。朝の会では保育士のリードで踊りを楽しみ、その後には絵本の読み聞かせをしていました。その間に2歳児が階段を使って入場して3歳児の前に座り、その間に3～5歳児は「手のひらを太陽に」を合唱して迎え入れます。次に1歳児が舞台に向かって左側に、0歳児の一部が右側のベビーチェアに座りました。

【3歳児】

<お誕生会后>

製作の時間が始まり、ひまわりの製作を行っています。パンチで穴をたくさん空けた丸い茶色の紙と花びらの形に切った黄色の紙を配ってもらい、穴に黒い糸を通してひまわりの種の部分を作り、周りに黄色の花びらを糊で付けていきます。作業の早い子も遅い子も居ましたが、皆集中して行っていました。

作業の間、保育士たちは「上手に貼れましたね」「おかあさん指に糊を付けてごらん」等、子どもたちを褒めたりしながら園児のやる気を引き出すように促していました。黄色い花びらを二枚貼った時点で「ライオンだ～」という子どもの言葉に、保育士は「そうだね、ライオンになったね」「三枚目を貼ると何になるかな？」と子どもの発想を大切に、楽しみながら製作が進むよう「次はどうなるか」など期待を持たせる言葉掛けをしていました。

<水遊び>

園舎の8Fには大型のプールが設置してある、広い園庭があります。子どもたちは着替えやタオルなどを各自持って、エレベーターで8Fに行きます。

当日、プールは行われていませんでしたが、温水シャワーの水浴びでも子どもたちは十分楽しんでいました。

<食事の風景>

食事中は卵スープやお肉のおかわりを、喜んでしていました。食事の終わった子から自分の口拭きタオルなどを畳み、皆で「ごちそうさまでした」の挨拶をしました。歯磨きは各自終えた後、保育士の仕上げ磨きもしてもらいました。

<降園前のひと時>

床に道路マップのカーペットを敷きミニカーで遊ぶ子や、「ひまわりの製作」の続きをする子ども、粘土遊びをしている子どもなど、遊びの種類によってテーブルを分けながら降園前のひと時を思い思いに過ごしていました。

【4歳児】

<お誕生会后>

誕生会の後、4、5歳児は体育館で運動会の練習をするため、移動の準備にとりかかりました。水筒を持って用意し、遅い子に対しては保育士が「〇〇くん、先生まってるよ～」 「あった？（水筒を探していた）」と優しく声を掛け、焦らす風ではなく穏やかに園児たちがスムーズに行動へ移せるよう促しており、その声掛けと雰囲気がとても良い感じでした。

<みんなで気持ちを合わせて作り上げたパラバルーン>

併設の体育館では、10月に行われる運動会での種目の、パラバルーンの練習が行われました。

4歳児全員が、8呼間でリズムを取りながら入場してきて、左右前後と様々な方向へ進み、リズムに合わせて同じ歩調で進みます。

2列に並んで離ればなれにならないよう入場してきたら、パラバルーンという直径5mほどの円形のビニール（膨らんだら斑模様の風船になる）を完成させる表現遊びをしました。

子どもたち一人ひとりがパラバルーンの端を持ち、曲に合わせてバルーンを高くバンザイしながら空気を取り込み膨らませたりしていきます。ここで一人でもバルーンから手を離せば空気が出てしまい、バルーンは膨らまず完成とならないため、皆の協力が何より大切という事を体験出来る競技です。

フィナーレでは、膨らんだバルーンの中でポーズを作り、バルーンを取り除くとその整然とした列が姿を現します。競技を終えた子どもたちは、完成した達成感により喜びの声であふれていました。「リズムにのって歌ったり踊ったりするため、一人ひとりの頑張りだけでなく、クラス全体の気持ちが一つに合わさった時にバルーンは完成します。その頑張りや褒めてあげれば、子どもたちの自信に繋がるとても良い活動になります」と、指導したクラスの保育士はこの運動の効果の素晴らしさを語っていました。

<食事>

アレルギー児の食事の出し方を中心に

新横浜第二保育園は、全園児に対しアレルギーを持つ子どもの割合が15%と、比較的その比率が高い保育園です。4歳児には対象の子どもが2名おり、毎月家庭へ渡す献立表には全メニューの材料名を記載して、保護者からアレルゲンチェックをして返却してもらうようにしています。それを担当の保育士が、医者からの指示書を基に誤記がないかを再確認します。当日その業務を行っていた保育士も「非常に気を遣います」と言っていました。

厨房にある「個人食事連絡票」のボードには、該当児の氏名とともに、「通常メニュー、ロールパン」→「変更メニュー、食パン」といった形で変更点が明記され、その確認を行った保育士の氏名も添えられていました。

こうしたボードの情報は、例えば「名札」と「青魚、たまご 禁」と印刷された「紙」がセットで青色（クラスカラーが決められ園内の表示はその色で統一されている）の配膳プレートに張り付けられ、セットした調理員とは別の一人がダブルチェックを行う際に反映されます

一連の確認作業が完了すると、その青色プレートは配膳担当の保育士へと渡り、クラスではそれをアレルギーを持つ子ども専用のテーブルへ配膳します。

当番の子どもが前へ出て食事の始まりの挨拶を伝え、30分間の食事タイムが始まります。各テーブルに保育士がつき、子どもの食べ方や様子を見守ります。お箸は全員使えますが、フォークを使っている子どもも居ました。

「ごちそうさま」の挨拶の後は片づけになり、子どもたちは自分で1皿ずつ所定の位置へ運びます。今回は5皿使っていたため、5回運んでいました。

<スマート・ホット・キッズ>

「スマート・ホット・キッズ」という運動プログラムを午前の1時間、コーチ4名とクラスの保育士2名の指導の下、体育館で行いました。

子どもたち、コーチ、保育士が整列し、「よろしくお願ひします」の挨拶で始まります。コーチの「ハイッ立って!」、「ハイッ座って!」との掛け声で全員サッと立ち、座りができ、きびきび行動していました。また、「同じ人数で並んでください」と列の形成を促すと、自発的に列を作り並ぶことが出来ていました。並ぶ場所がわからない子どもには、再度声を掛けると今度は速やかに並べ、本格的にプログラムが始まります。

毎週プログラムの内容が異なり、今日は年に3回行われる体力測定を行います。25m走、立ち幅跳び、テニスボール投げを測定し、各回と比較することで子どもたちの成長を見ます。

測定の前にウォーミングアップでスキップ、25m走、バックスキップを行い、コーチが手の振り方・足の上げ方やまっすぐ走る方法など、子どもたちの様子を見ながら指導をします。

測定の間、順番待ちをしている子どもたちは他のスペースで、ゴム製のバランスディスクを使い、8つ並べたディスク上を歩くバランス練習に取り組みます。ゴム製のためその

上を歩くのは難しいようで、バランスを崩してすぐに床に足がつく子どももいる中で、最後まであつという間に歩いていける子どももあり、運動能力には個人差が見られました。体幹を養うには格好の運動遊びだと思います。また、スクーターボードに腹ばいになり四肢を動かしながら進みます。特に足の股関節の可動域を広げ、走る時に足がよく上がるようにする上で有効だと思います。

測定の様子を見ると、テニスボール投げは大体6～15mほど投げられていました。水分補給を取った後は、ダンスをします。

プロダンサーが指導するダンスでは「Get ready for this!」の曲で踊ります。子どもたちは真剣に振付を覚えようと必死に取り組んでいます。初めは動きについていけない子どももいましたが、何回も繰り返し練習します。

これらのプログラムを通して疲れたと言う子どもは一人も見られず、挑戦する大切さを学んでいたようです。担当していた保育士は、「このプログラムを通じて『外で遊ばない子どもが増えている中で、外での遊びを身につける』『礼儀・ルールを教える』『体を作る』『挑戦する』『出来た時の達成感』を身につけることが出来て、きっと子どもたちの役に立つはずです」と語っていました。

【5歳児】

<誕生会后>

4、5歳児は体育館で運動会の練習をするために、準備をしています。

<組立て体操>

保育士の伝える「立つ・座る」などの指示がなかなか全体に浸透しない場面もありました。子どもたちへの声掛けも集中できるように工夫をしていましたが、後方の男の子たちの中にはそれでも落ち着かず、気持ちを一致させて組立て体操をするにはまだ練習が必要なようでした。

<食事>

食事の時間には、園児も当番の子どもの2人がエプロン・マスク・三角巾を着用して、バナナとお茶の配膳を行い、配膳を進める保育士の横でお手伝いをしていました。(スープ、主食などは保育士が配膳) 子どもたちは、取り分けられたものを各自テーブルに持って行きます。その際、苦手なものが含まれている場合は少なめによそわれた物を取るようになり、それでもなお完食が難しい時には保育士と相談して一口だけ食べるようにすることでした。片づけは各テーブルで皿類を大きさごとにまとめ、分担して持って行くようでした。

■ 保育園の基本理念や基本方針についておたずねします。

問1 あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか(○は1つだけ)

1よく知っている 14名 12%	3どちらともいえない 18名 16%	4あまり知らない 12名 11%	無回答 4 (4%)
2まあ知っている 62名 55%	5全く知らない 3名 3%		

合計 113

付問1 【「1 よく知っている」または「2 まあ知っている」とお答えの方へ】

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。(○は1つだけ)

1賛同できる 49名 65%	3どちらともいえない 1名 1%	4あまり賛同できない 0名 0%	
2まあ賛同できる 26名 34%	5賛同できない 0名 0%		

■ ここからは保育園のサービス内容について、満足度をおたずねします。

問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。(○はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

(上段の単位は人)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	63 56%	30 27%	3 3%	0 0%	16 14%	1 1%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	61 54%	44 39%	3 3%	0 0%	5 4%	0 0%
園の目標や方針についての説明には	54 48%	46 41%	9 8%	1 1%	3 3%	0 0%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	63 56%	46 41%	3 3%	0 0%	1 1%	0 0%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	51 45%	52 46%	9 8%	0 0%	1 1%	0 0%
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	54 48%	43 38%	11 10%	3 3%	2 2%	0 0%

問3 保育や行事の年間計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。(○はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	56 50%	46 41%	9 8%	1 1%	1 1%	0 0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	36 32%	57 50%	9 8%	3 3%	8 7%	0 0%

問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。(○はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	62 55%	46 41%	5 4%	0 0%	0 0%	0 0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	44 39%	42 37%	19 17%	5 4%	3 3%	0 0%
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	62 55%	40 35%	8 7%	0 0%	3 3%	0 0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	49 43%	41 36%	19 17%	1 1%	3 3%	0 0%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	60 53%	44 39%	6 5%	1 1%	1 1%	1 1%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	60 53%	39 35%	12 11%	1 1%	1 1%	0 0%

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	73	32	6	1	0	1
	65%	28%	5%	1%	0%	1%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	74	32	3	0	3	1
	65%	28%	3%	0%	3%	1%
基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	82	26	2	0	2	1
	73%	23%	2%	0%	2%	1%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	72	33	5	0	1	2
	64%	29%	4%	0%	1%	2%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	53	36	7	0	8	9
	47%	32%	6%	0%	7%	8%
お子さんの体調への気配りについては	68	32	7	1	3	2
	60%	28%	6%	1%	3%	2%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	60	34	9	2	3	5
	53%	30%	8%	2%	3%	4%

問5 保育園の快適さや安全対策などについてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。（〇はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。）

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	77	32	1	0	1	2
	68%	28%	1%	0%	1%	2%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	70	34	7	0	1	1
	62%	30%	6%	0%	1%	1%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	65	31	10	1	4	2
	58%	27%	9%	1%	4%	2%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	75	31	4	2	0	1
	66%	27%	4%	2%	0%	1%

問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。（〇はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。）

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	46	54	6	2	3	2
	41%	48%	5%	2%	3%	2%
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	58	44	8	1	0	2
	51%	39%	7%	1%	0%	2%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	61	38	9	2	0	3
	54%	34%	8%	2%	0%	3%
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	50	44	10	6	1	2
	44%	39%	9%	5%	1%	2%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	54	42	9	2	3	3
	48%	37%	8%	2%	3%	3%
保護者からの相談事への対応には	50	45	13	2	1	2
	44%	40%	12%	2%	1%	2%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	50	33	16	4	8	2
	44%	29%	14%	4%	7%	2%

問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。（〇はそれぞれ1つずつ。その他を選択した場合は、その理由をご記入ください。）

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	62	35	10	0	4	2
	55%	31%	9%	0%	4%	2%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	71	36	4	0	0	2
	63%	32%	4%	0%	0%	2%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	52	28	5	0	23	5
	46%	25%	4%	0%	20%	4%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	58	38	8	4	3	2
	51%	34%	7%	4%	3%	2%
意見や要望への対応については	47	44	10	5	5	2
	42%	39%	9%	4%	4%	2%

問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

総合満足度は	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
	57	48	5	1	0	2
	50%	42%	4%	1%	0%	2%

【実施概要】

実施期間 平成29年7月5日から7月21日

実施方法 実施方法:全園児の保護者にアンケート用紙と回収用封筒を配布し、無記名・密封状態で園に設置した回収ボックスにより回収し、全てを評価機関に持ち帰り分析した。

回収率 81.8%

【結果の特徴】

保育園に対する総合的な評価としては、92%の保護者が「満足」「どちらかといえば満足」としており、非常に高い満足度が示されている。

特に「クラスの活動や遊び」及び「基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗い等)の自立に向けての取り組み」、「保育園の快適さ、安全対策等」の取り組みは、保護者から高い評価を受けている。但し、「遊び」の中で、「戸外での遊び」や「自然との触れ合い」の実施を増やしてほしいとの要望が見受けられた。岩崎学園新横浜第二保育園には、十分な園庭も確保され、戸外活動も実施されている。天候が優れないときは隣接する体育館を活用するなど、園児たちが十分に活動できる環境が整えられているが、保護者によっては、個々の満足度や期待感が違うことに起因すると推測される。対応としては、園児たちの外出の様子が伺える写真等を園の連絡板や家庭へのおたよりに掲載することで、保護者の更なる理解が得られると考えられる。